

# 自 動 検 出 未 対 応 コ ン パ イ ラ の 組 込 み 方 法

(CSIDE Ver.4 用資料)

第 2 版 2004 年 12 月 27 日

## ◎資料内容◎

本資料は、自動検出に未対応のコンパイラ・パッケージを CSIDE IDE に組込んでご使用いただく方に向けて、CSIDE の設定手順を説明いたします。

CSIDE IDE にコンパイラ・パッケージを組込むためには、コンパイラ等の実行ツールの設定や拡張子情報などを設定する必要があります。それらの設定を行なう手間を省きより簡単に組込んでいただくために、コンパイラ・パッケージごとにベースとなるワークスペース・ファイル(CWF ファイル)をご用意いたしました。操作画面を参考に説明を進めて参りますので、本資料の手順に従って操作をしていただければお使いのコンパイラ・パッケージを容易に CSIDE に組込むことが可能となります。

本資料は、複数のコンパイラ共通の資料となっているため、資料中の操作画面や文中に登場しますワークスペース・ファイル名やツール名などを XXXX というように伏せております。お使いになられるコンパイラ・パッケージの内容に置き換えて設定を行なってください。

◎ベースとなるワークスペース・ファイルは以下の URL から、お使いのコンパイラに対応したワークスペース・ファイルをダウンロード後、解凍してご使用ください。

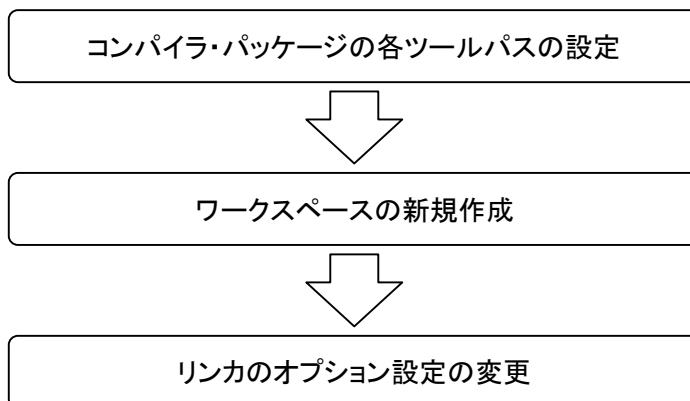
Green Hills C クロスコンパイラ SuperH : GreenHills.cwf

[http://www.computex.co.jp/support/supplement/cs0005\\_greenhills.lzh](http://www.computex.co.jp/support/supplement/cs0005_greenhills.lzh)

IAR ARM コンパイラ : EW411a.cwf

[http://www.computex.co.jp/support/supplement/cs0005\\_ew411a.lzh](http://www.computex.co.jp/support/supplement/cs0005_ew411a.lzh)

本資料の流れは以下の通りとなります。

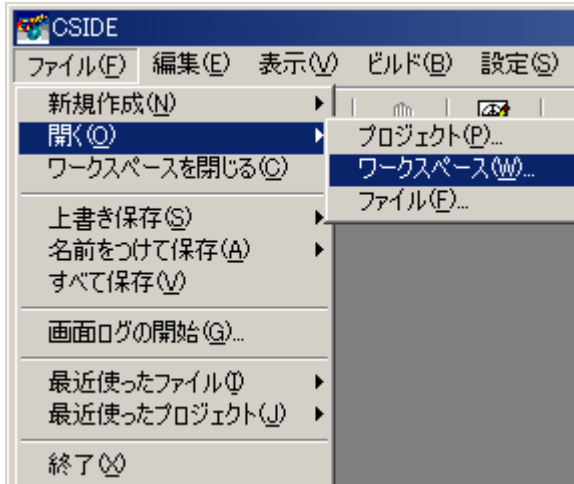


## ◎コンパイラ・パッケージの各ツールパスの設定

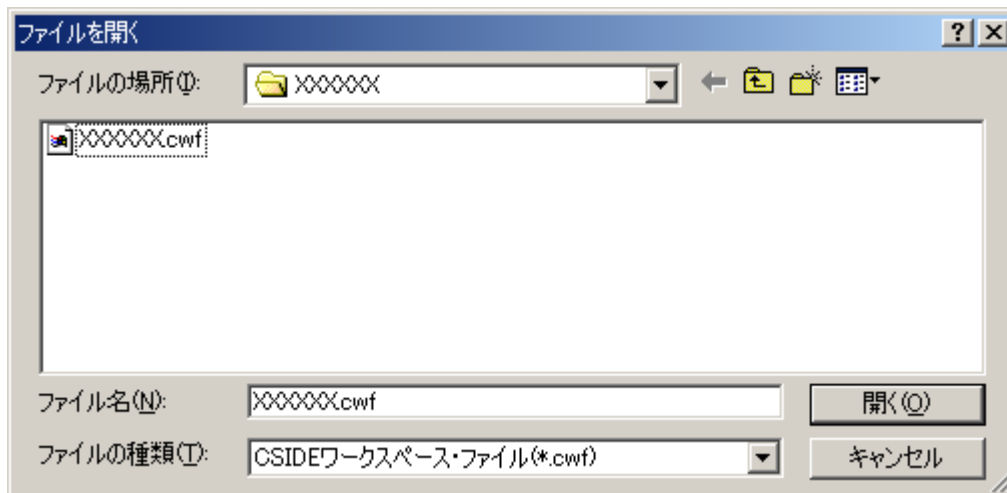
ベースとなるワークスペース・ファイルには、ビルド時に使用するツールが設定されていません。

ここではお使いになる環境に合わせて、インストールされていますコンパイラ・パッケージの各ツールへのパスの設定を行ないます。

1. メニューバー [ファイル]-[開く]-[ワークスペース]を選択してください。



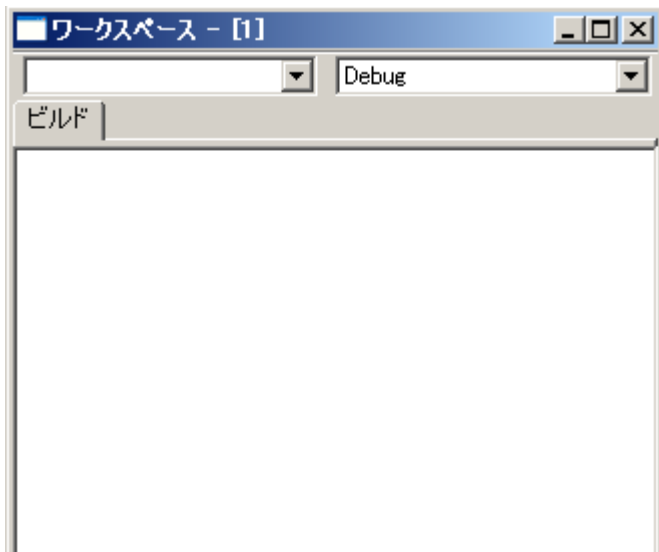
2. 弊社ホームページからダウンロードしたベースとなるワークスペース・ファイルを選択して開きます。



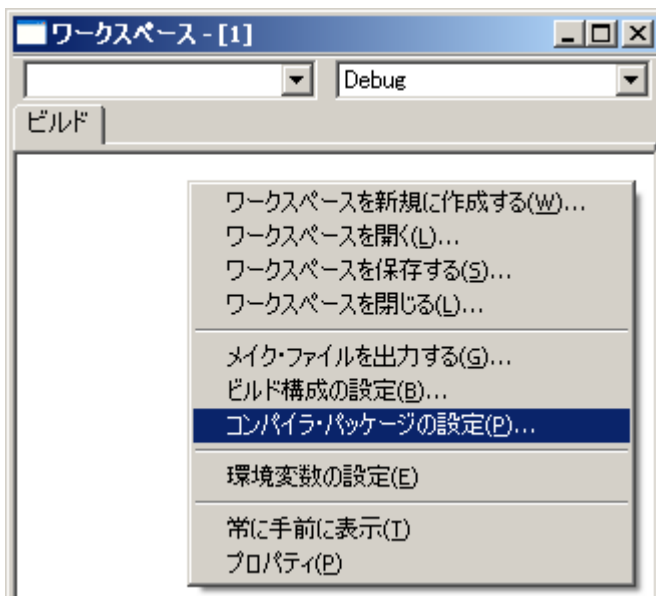
※XXXXXX.cwf はダウンロードされた cwf ファイル名を指します。

3. 何も表示されないワークスペースウィンドウが開かれます。

ウィンドウ内には何も表示されませんが、ベースとなるワークスペースウィンドウにはデフォルトオプションと拡張子情報が設定されており、それらが読み込まれています。

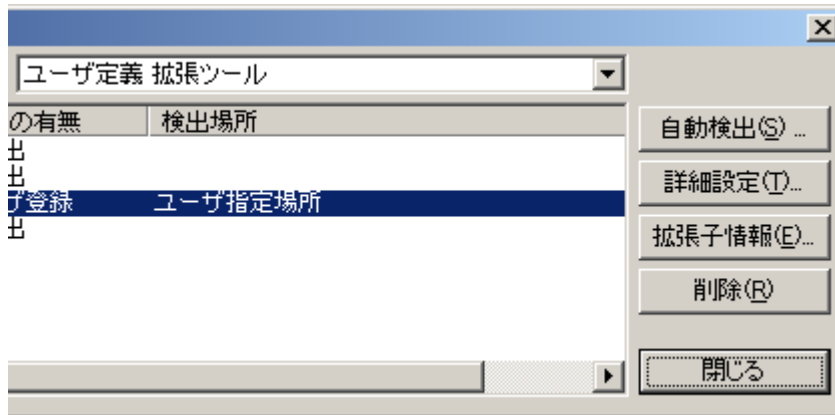


4. ポップアップメニュー内、もしくはメニューバー [ビルド]の[コンパイラ・パッケージの設定]を選択してください。



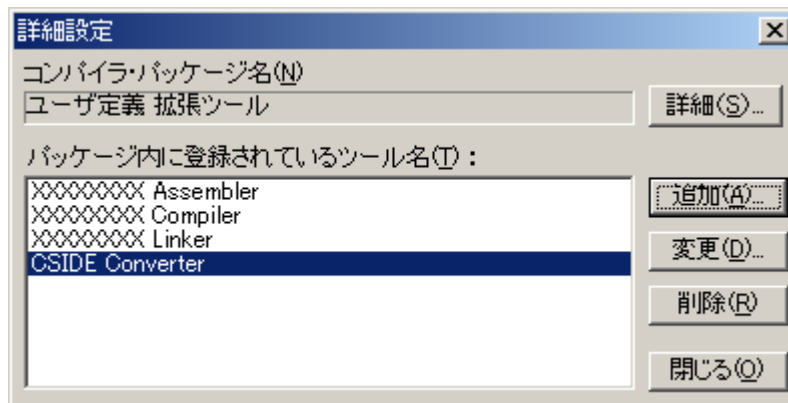
5. [コンパイラ・パッケージの設定]ダイアログボックスが開かれます。

アクティブ・コンパイラに”ユーザ・定義 拡張ツール”が選択されているのを確認し、[詳細設定]を押してください。



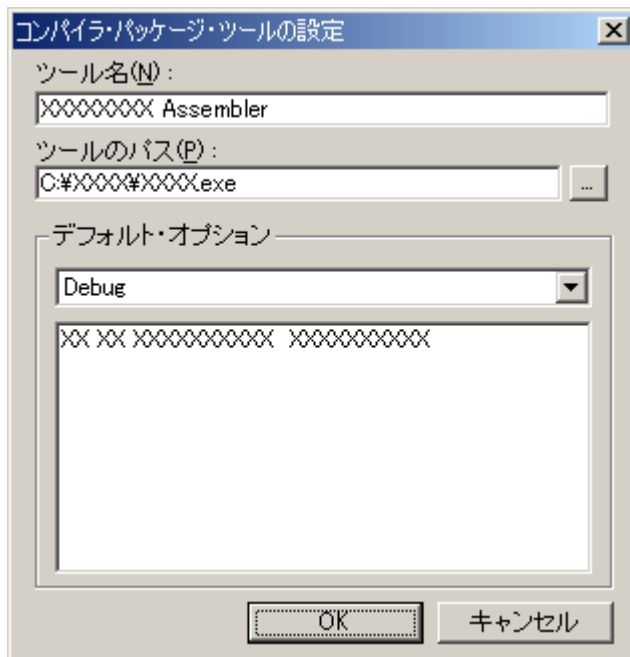
6. [詳細設定]ダイアログが開かれます。

ベースとなるワークスペースを読み込むことで、既に各コンパイラ・パッケージで必要なツールが登録されています。表示されているツールを選択し[変更]を押してください。



※XXXX 部分は読み込まれた cwf ファイルにより変わります。

7. [コンパイラ・パッケージのツールの設定]が開かれます。ダイアログボックス内の[ツールのパス]にツール名に対応したツールの実行ファイルへのパスを入力してください。入力後、[OK]を押して閉じてください。



※使用コンパイラによりツールの EXE 名、デフォルトオプションが異なります。

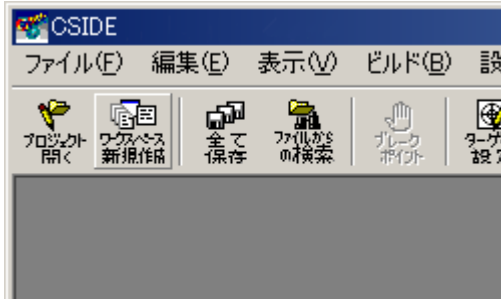
8. 残りの他のツールも同様に、実行ファイルへのパスをお使いの環境に合わせて変更してください。全てのツールの変更が終われば、[詳細設定]ダイアログボックスを閉じてください。

## ◎ワークスペースの新規作成

前項で読み込み、設定を行なったコンパイラ・パッケージを使用したワークスペースを作成します。

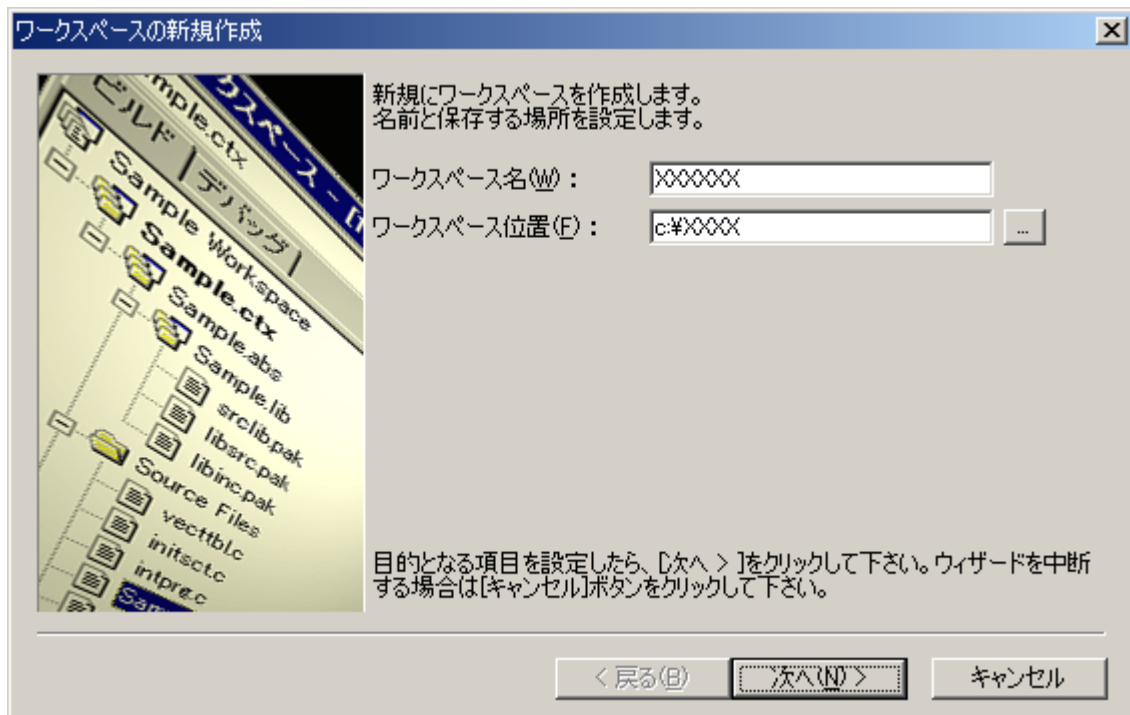
1. ツールバー[ワークスペースの新規作成]を押してください。

[ワークスペースの新規作成]ウィザードが開始します。

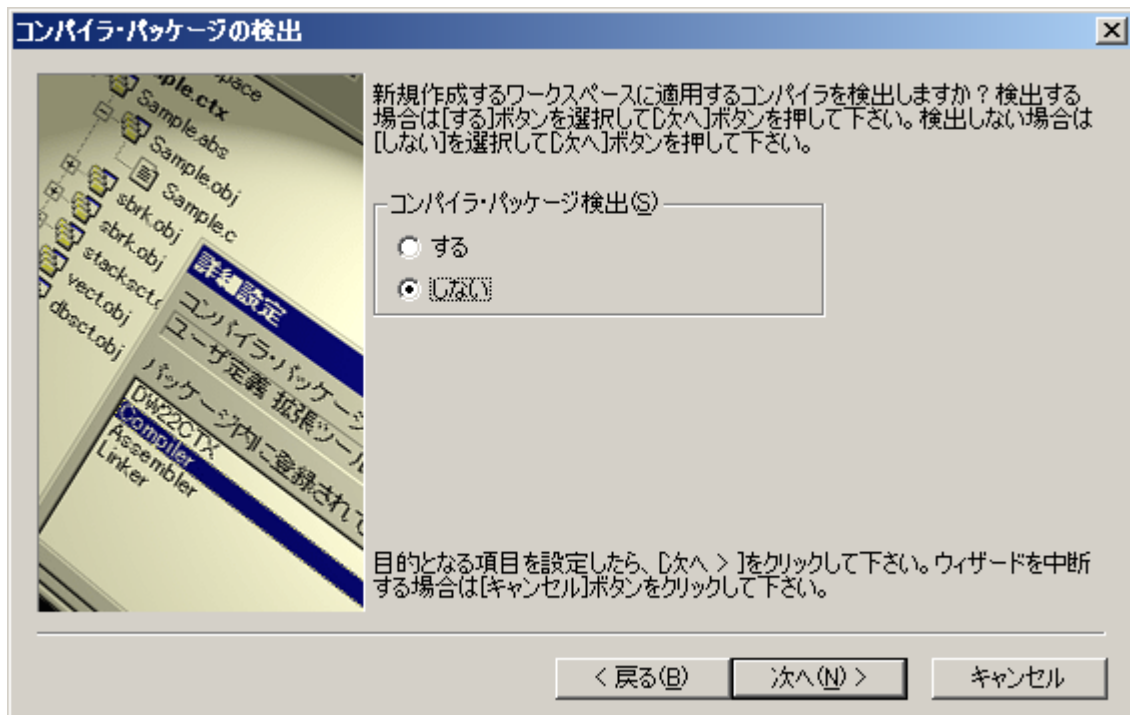


2. ワークスペース名とワークスペースを作成する位置を指定します。

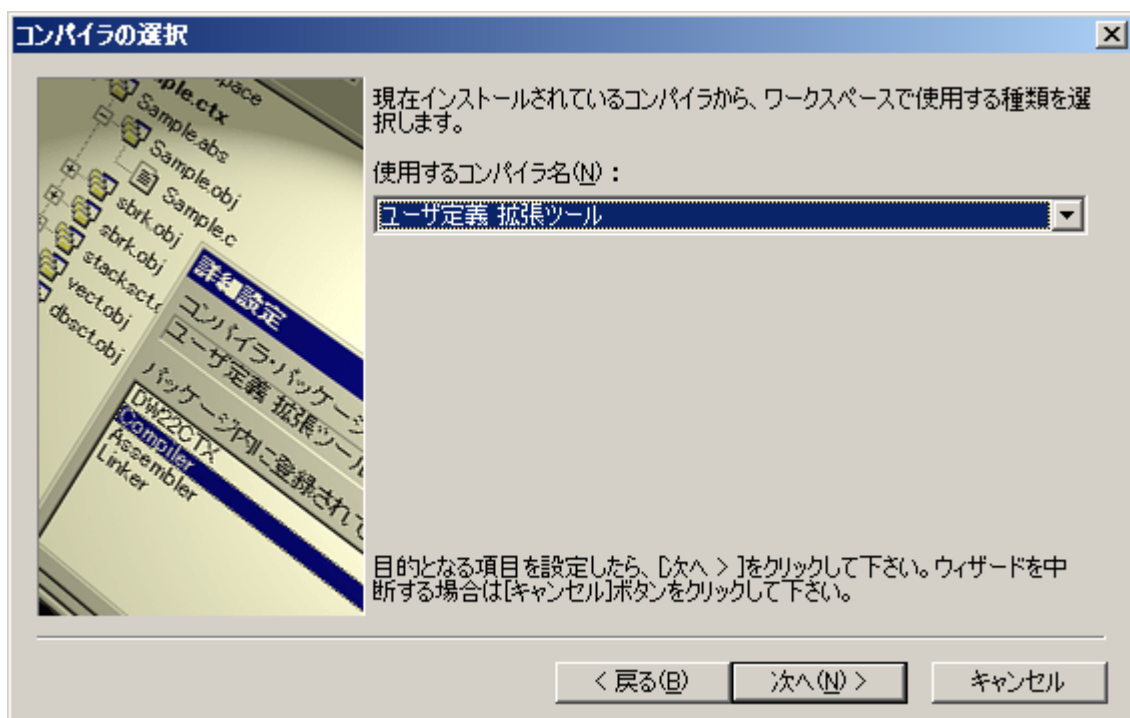
指定後、[次へ]を押して進んでください。



3. 前項でコンパイラ・パッケージの各ツールパスの設定を行ないましたので検出を行なう必要はありません。ここでは、コンパイラ・パッケージの検出は[しない]を選択し[次へ]で進んでください。

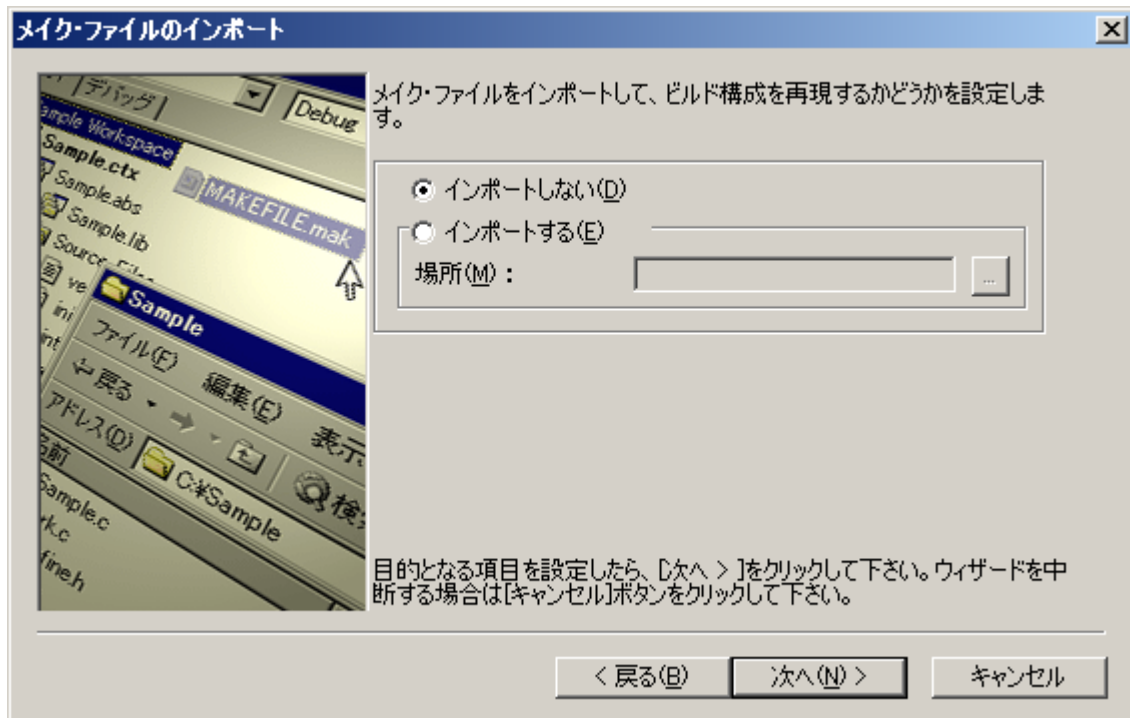


4. [ユーザ定義 拡張ツール]が選択されているのを確認し、そのまま[次へ]で進んでください。



5. メイク・ファイルのインポートは行ないませんので、そのまま[次へ]で進んでください。

※ユーザ定義拡張ツールでのメイク・ファイルのインポートに関しましては、別途資料がございますのでそちらをご覧ください。

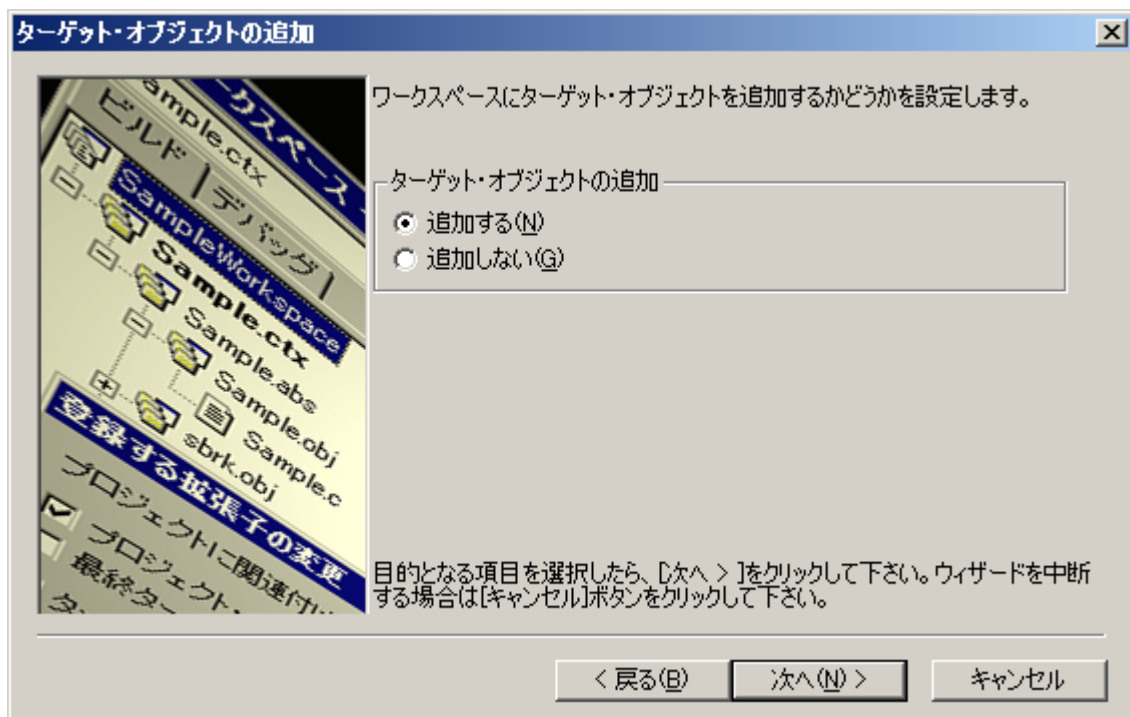


6. ターゲット・オブジェクトの追加の選択を行ないます。

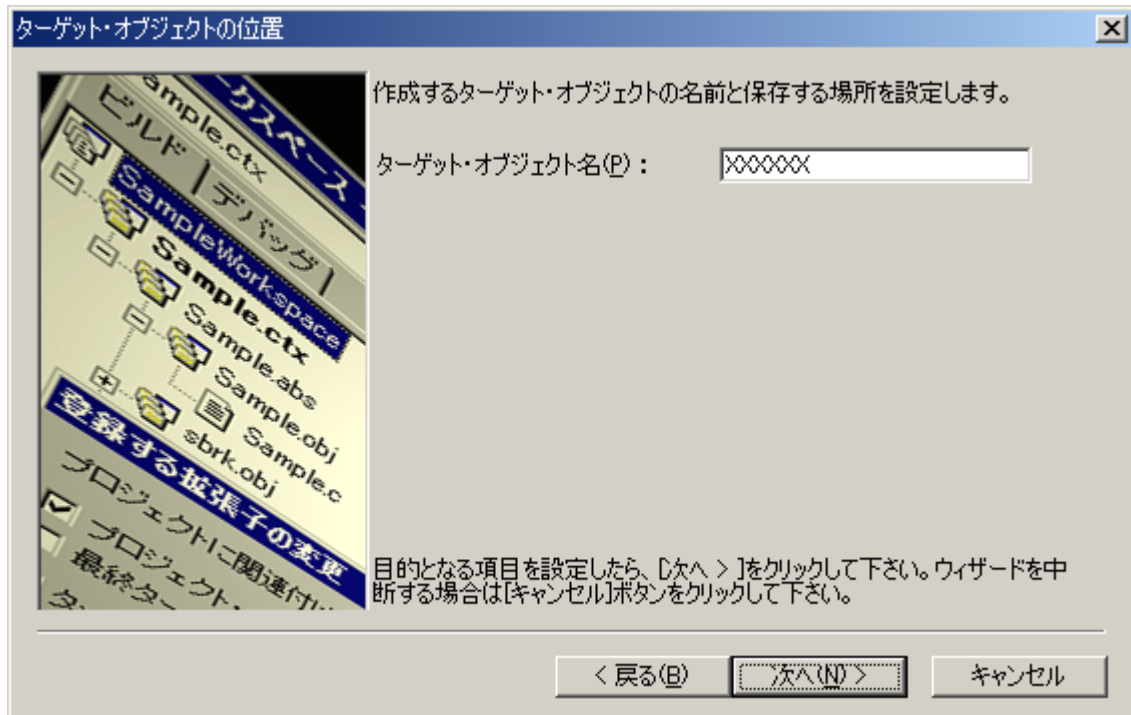
最終ターゲット・オブジェクトをワークスペースに自動追加を行なうかどうかを選択します。

行なわない場合はターゲット・オブジェクトが何も設定されていないワークスペースが作成されます。

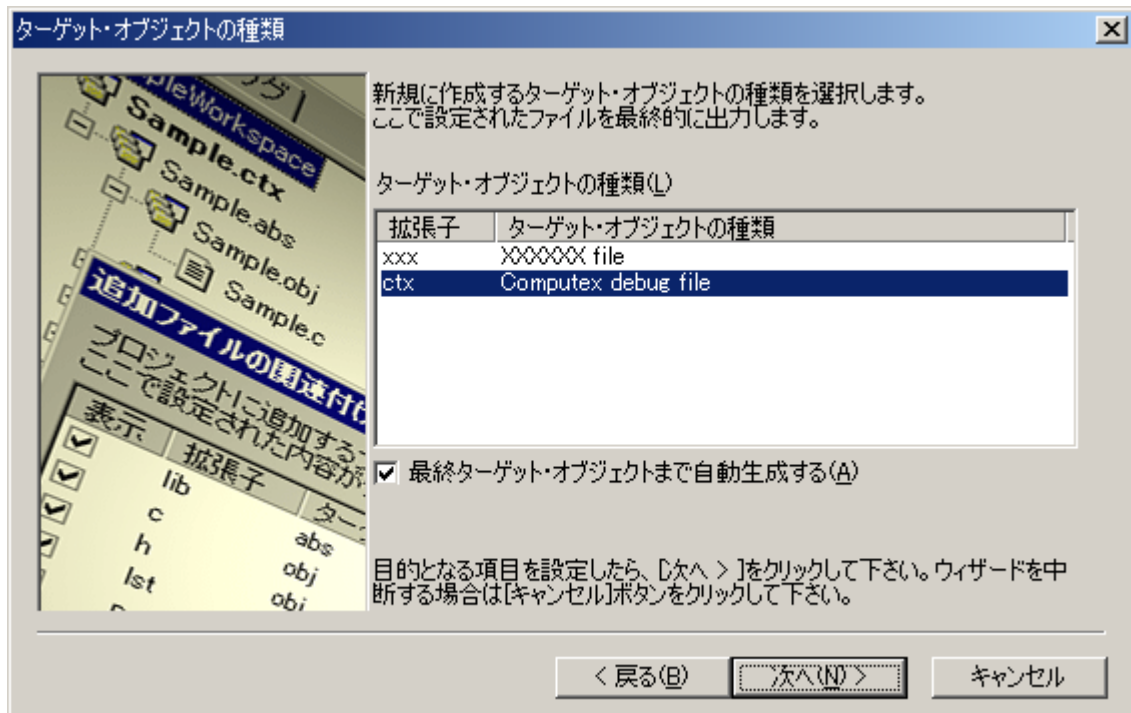
ここではターゲット・オブジェクトを追加しますので、そのまま[次へ]を押して進んでください。



7. 出力されるターゲット・オブジェクトの名前を設定します。デフォルトではワークスペース名が設定されています。名前を入力後[次へ]を押して進んでください。

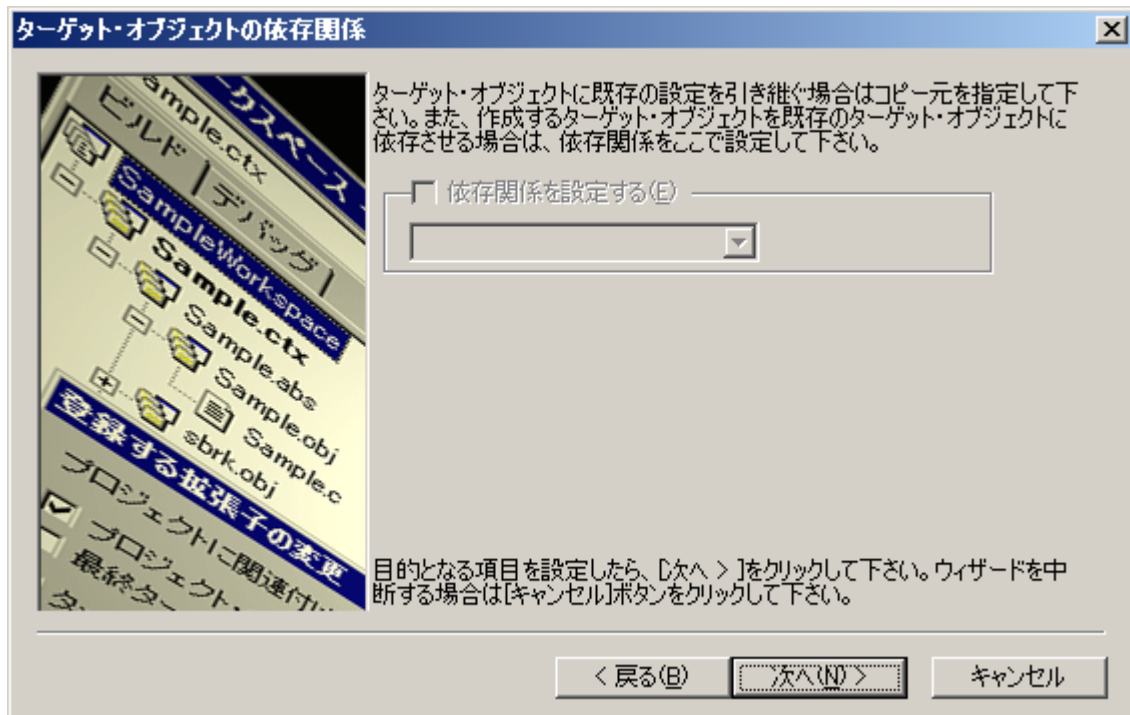


8. 新規に作成するターゲット・オブジェクトの種類を選択します。  
「最終ターゲット・オブジェクトまで自動生成する」のチェック・ボックスにチェックを入れますと、選択したターゲット・オブジェクトに依存するファイルがあった場合、その関係を自動的に生成します。  
ここでは ctx を選択しチェック・ボックスにチェックの入った状態で[次へ]を押して進んでください。

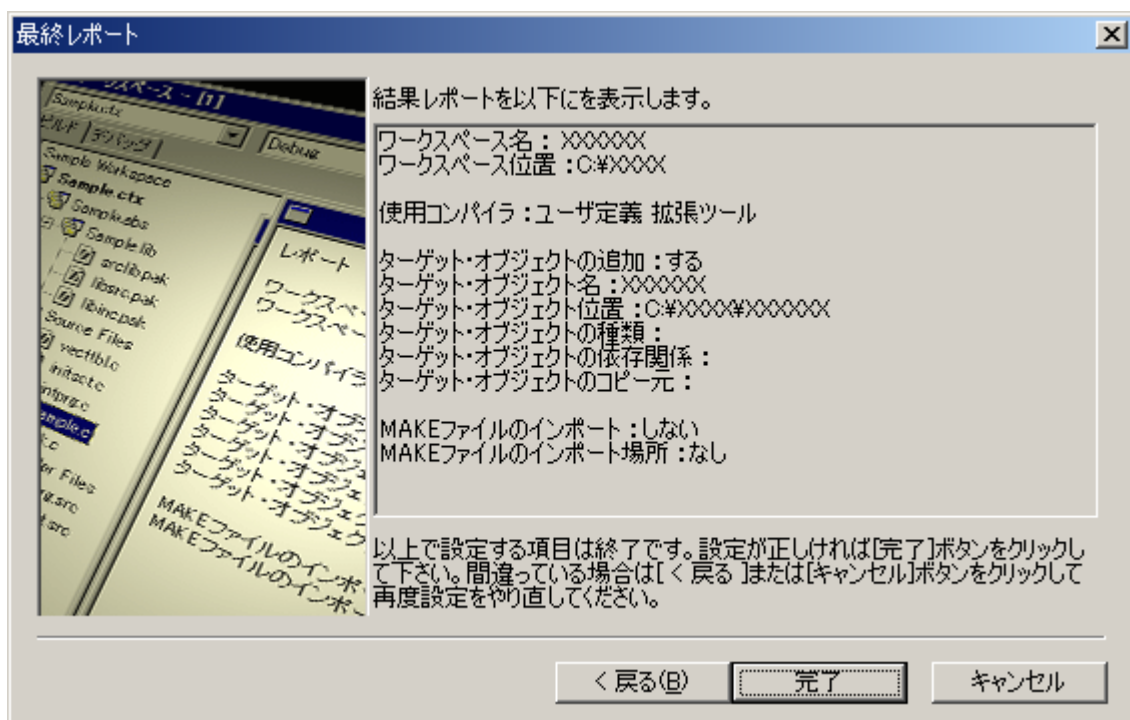


※ctx のみを作成する場合は、[最終ターゲット・オブジェクトまで自動生成する]のチェックをはずしてください

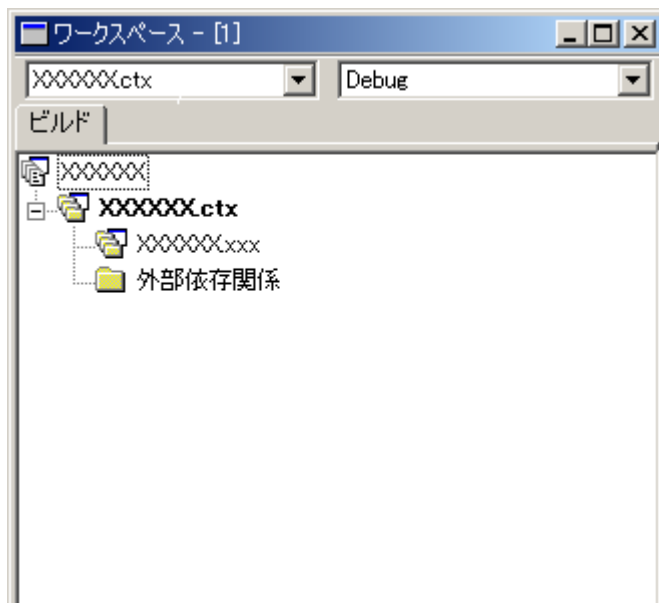
9. そのまま[次へ]で進んでください。



10. 設定した内容の確認としてレポートが表示されます。内容を確認後[完了]を押すとウィザードが完了します。



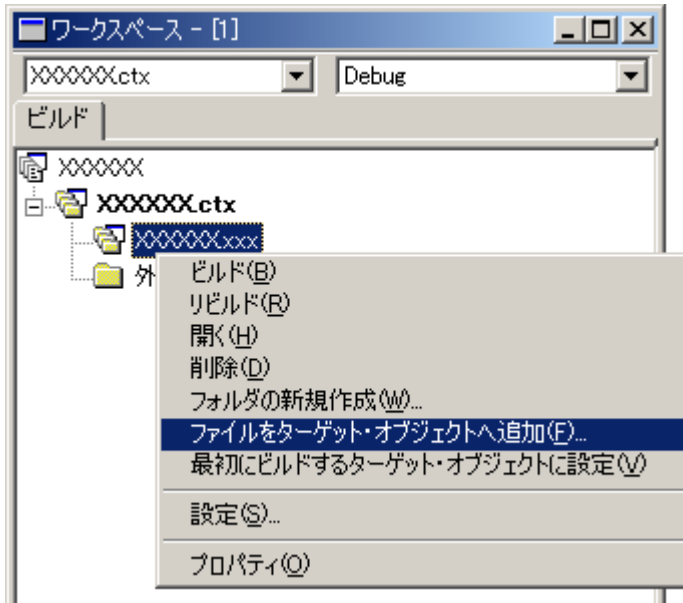
11. ワークスペースウィンドウにオブジェクトが追加されました。



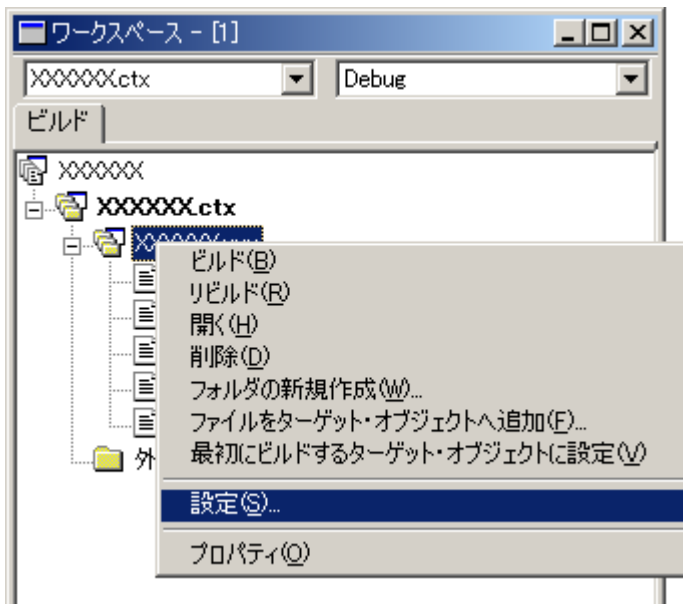
## ◎オプション設定の変更

コンパイルオプションの設定を行いません。項目途中で、コンパイラごとに説明が分かりますのでお使いのコンパイラの項目をご覧ください。なお、ユーザ定義 拡張ツールを使用される場合、オンラインマニュアルに記載されていますような GUI でのオプションの設定を使用することができませんのでご注意ください。

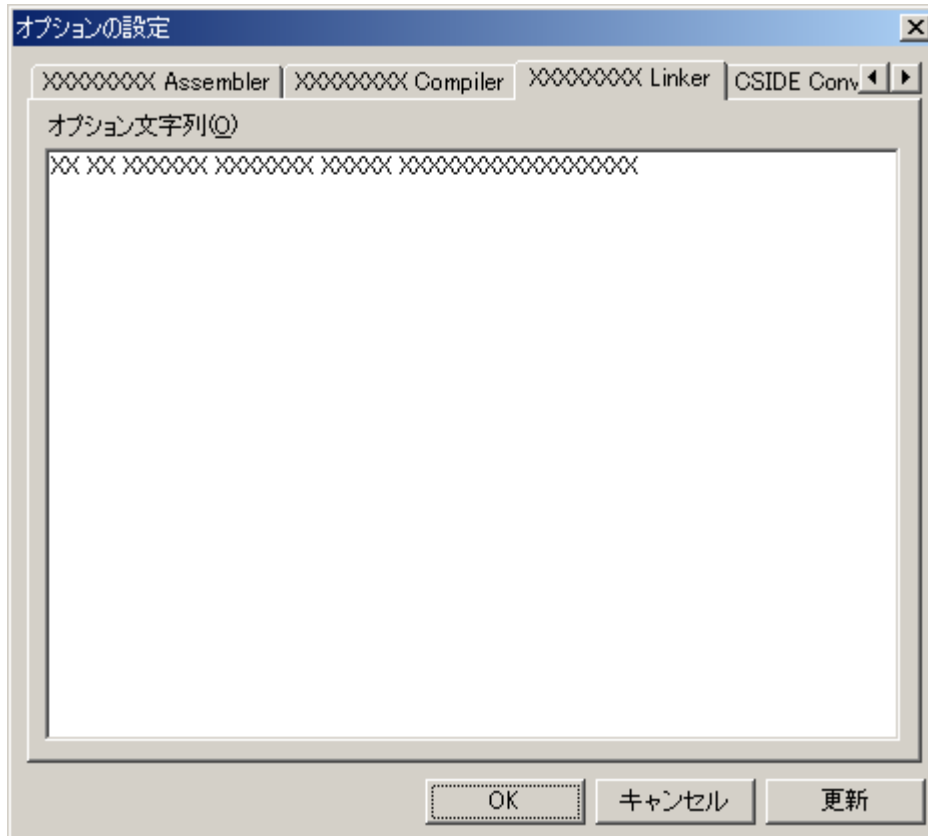
1. リンカのオプションを変更するにはソースファイルが追加されている必要がありますので、まずソースファイルを追加します。オブジェクト・ファイルを選択しポップアップメニュー内の[ファイルをターゲット・オブジェクトへ追加]を選択し必要なソースファイルを追加してください。



2. ソースファイル追加後オブジェクト・ファイルを選択しポップアップメニュー内[設定]を選択し[オプション設定]を開いてください。



3. ユーザ定義 拡張ツールでのオプションの設定は以下の様な画面になります。

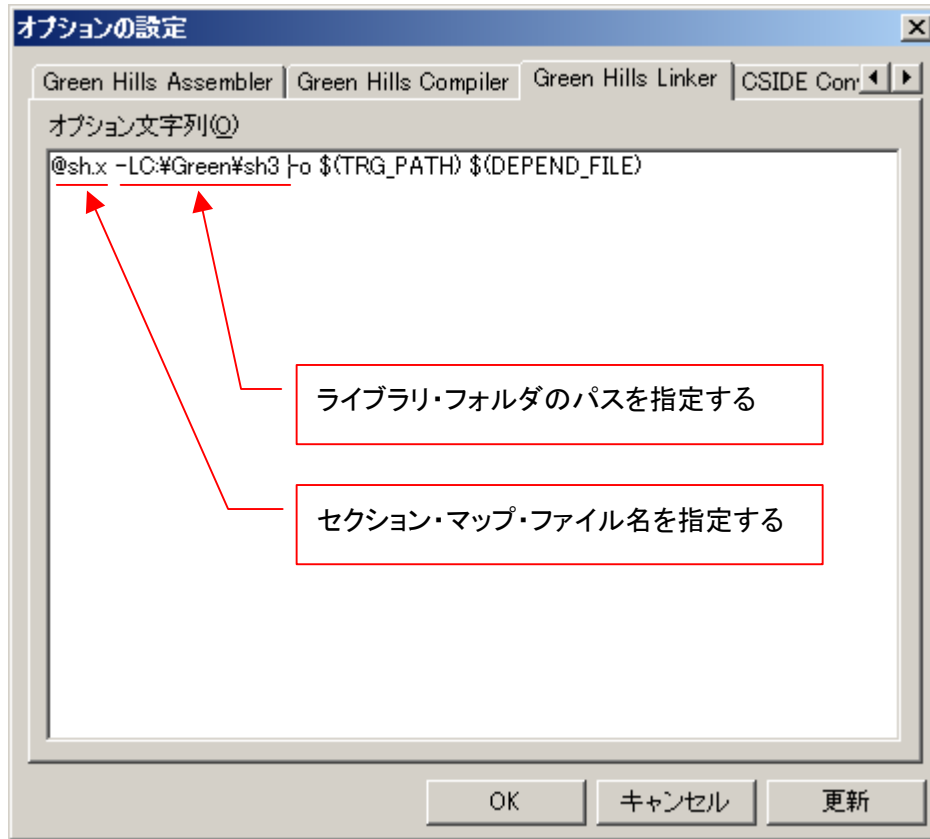


※使用されるコンパイラにより、ツールの種類、デフォルトで設定されているオプション等が変わりますのでご注意ください。

※これ以降はコンパイラごとに内容が分かりますので、ご使用のコンパイラの項目をご覧ください。

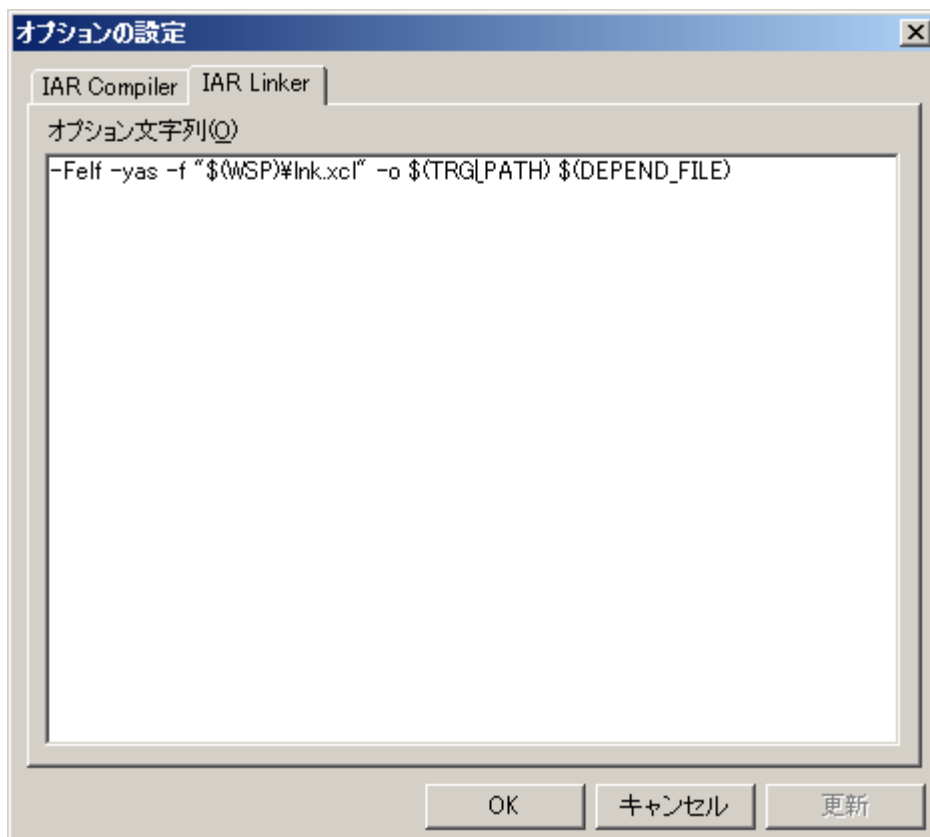
・Green Hills C クロスコンパイラ SuperH の場合

リンカ・オプションの設定で、セクションマップオプション(@)とライブラリの検索パスオプション(-L)の指定がされていないので環境に合わせて変更してください。



**・IAR ARM コンパイラの場合**

セクションやメモリマップの指定はXCLファイルで行いません。XCLの設定方法につきましてはxlinkのリファレンスマニュアルを参照してください。初期設定ではワークスペースフォルダの”lnk.xcl”を読み込むようになっています。



自動検出未対応コンパイラの組み込み方法  
(CSIDE Ver.4 用)

---

2004 年 12 月 第 2 版

**Computex<sup>®</sup>**  
株式会社コンピューテックス

テクニカルセンタ

〒605-0846 京都市東山区五条橋東四丁目 432-13 對嵐坊ビル

TEL. 075(551)0373 FAX. 075(551)2585

Web Site : <http://www.computex.co.jp/>

E-mail : [support@computex.co.jp](mailto:support@computex.co.jp)